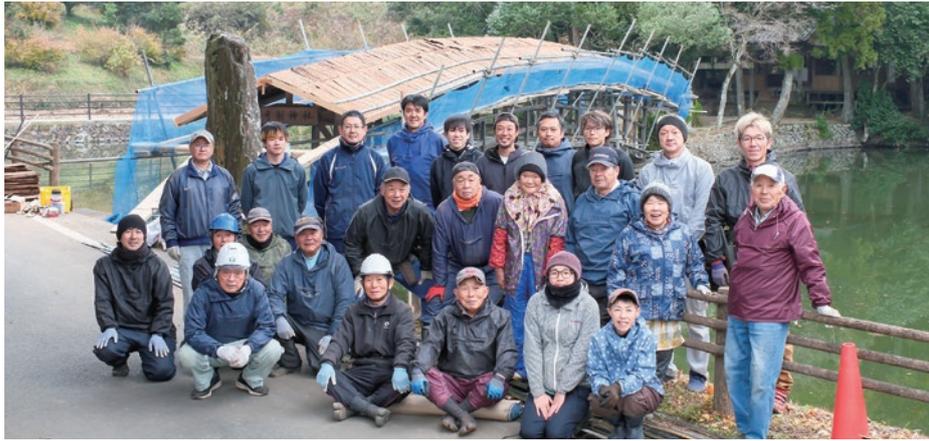


住人十色

第 182 回



◎葺き替え作業に参加した皆さん。やり方は「先輩を見て覚える」で次の世代へ伝えている

ふるさとの風景を守り続けたい—— 太鼓橋がつなぐ住民自治の伝統

石畳地区・弓削神社氏子の皆さん

石畳地区・弓削神社の太鼓橋の屋根葺き替えが、12月9～11日の3日間で行われました。参道の役割もある橋の屋根は杉皮葺きで、約10年毎に葺き替えています。作業には氏子を中心に地域住民ら約25人が参加し、橋の周辺に足場を組んで古い杉皮を剥がして、傷んだ箇所を修復。一枚一枚切りそろえた新しい杉皮を重ね、虫よけのため黒く焼いた孟宗竹を棟として据えます。神社総代の瀬戸眞豊さんは「若い人から年配者まで、みんなの協力で立派に仕上がった」と喜びます。長年、神社を見守る岡本實男さん(77)は「父や祖父も作業をしてきた。橋が残るのは、先代の人が大切に守ってくれたおかげ。自分たちも守らなといけな」という意識がみんなにある」と語ります。弓削神社には住民が日替わりで参拝する「日参まいり」の風習が残っています。「当番の旗が回ってきたらお参りをし、さつと落ち葉を片付け、旗を次の人に渡す。みんなができることで神社を守っている」と、岡本さんは優しくほほ笑みます。作業をした中には、初参加の若者の姿も。岡本さんは「経験はきつと心に残る。大切な風景を守る思いをつなぎ、みんなで楽しくやれたらいい。私もまた10年後、できることを手伝います」と笑顔でした。

編集 幸記

▽私の「住んどってよかったエピソード」は、自治会のソフトボール大会。県外の大学から帰郷してすぐの頃、地域と関わる場所があり、人が温かく、うれしかったのを覚えています。「自分も地元力になりたい」と思った出来事の一つです(史)

▽2月頭、車がレッカーで運ばれました。そろそろ寿命かなーと、ちょうど月末に次の車の納車を控えたタイミング。警告灯に「ー」のマークがあつて、しかもそれが2つも光つて……。翌日からは雪中、徒歩通勤でした(花)

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の
フリーダイヤル
☎0120(44)2130

